

都市再生整備計画 事後評価シート
函南賑わい中央地区

平成27年3月

静岡県函南町

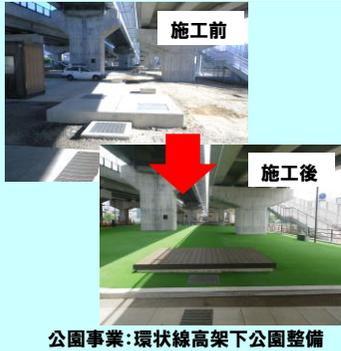
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	函南町		地区名	函南賑わい中央地区			面積	468ha				
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	2,929百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路((都)八ツ澤仁田線、町道1-2号線、町道1-4号線、町道1-8号線、町道2-2号線、町道2-6号線、町道仁田32号線、町道仁田40号線、町道上沢6号線外、町道間宮6号線熱田道路取合道路、町道間宮34号線、町道間宮45号線外、町道間宮9号線外、町道間宮49号線外、町道仁田37号線外、町道大土肥8号線外)、公園(環状線高架下公園)、下水道(公共下水道)、地域生活基盤施設(排水機場電気設備等改修、備蓄倉庫、防災コミュニティハウス、耐震貯水槽、防災通報無線子局、雨水貯留施設、災害対策用排水ポンプ、広場)、高質空間形成施設(町道上沢6号線外緑化施設)、高次都市施設(地域交流センター建設)												
		提案事業	地域創造支援事業(図書館建設)												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(町道2-6号線)、地域生活基盤施設(防災コミュニティハウス、耐震貯水槽)	削除/追加の理由 道路(町道2-6号線):町道2-6号線の施工に伴い必要となる排水処理について、計画立案当時は新田排水機場ポンプ増設を行うことで対処する予定であったが、増設の計画が遅延され、着工できない状態になったため、事業を削除した。 地域生活基盤施設(防災コミュニティハウス、耐震貯水槽):防災コミュニティハウス2棟(48.1㎡×2棟=96.2㎡)は、町内5地区の自主防災会に隣接し、町の中心部に位置する函南町役場の庁舎内のラウンジ室(職員用休憩室及び食堂 142.5㎡)を一棟に開設して使用してもらうことにより、防災コミュニティハウスの代替施設としての利用が可能になったため、事業を削除した。 また、耐震貯水槽の設置に關し、近隣の住宅密集度の再精査及び災害発生時により有効利用ができる箇所を検討した結果、広域避難所である西小学校及び函南中学校敷地内のプールにおいて使用していない冬季期間においても貯水を継続し、併せて常時消防水として使用できるように出入口の管理を変更することにより、耐震貯水槽の代替施設としての利用が可能となったことから事業を削除した。				なし	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	なし	-				なし	-						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(町道間宮79号線)、地域生活基盤施設(雨水調整池)	道路(町道間宮79号線):高規格道路である東駿河湾環状道路の街路との取付道路であり、生活道路として街路へのアクセスが必要となったため追加した。 地域生活基盤施設(雨水調整池):当初、図書館・地域交流施設内に雨水調整池を設置する予定だったが、隣接地の中央公民館においても文化プラザとしての位置付けをしており、また近接地には東駿河湾環状道路が建設されること、最近のゲリラ豪雨に対応するためと、下流河川への洪水調整を果すために、図書館・地域交流センター内と中央公民館内に雨水調整池設置が必要ため追加した。				なし							
		提案事業	地域創造支援事業(伊豆仁田駅前駐輪場防犯カメラ設置、中央公民館交流施設)、事業活用調査(事後評価)	地域創造支援事業(伊豆仁田駅前駐輪場防犯カメラ設置):道路事業である町道1-4号線の道路整備(自歩道整備)により駅への自転車利用者の増加が見込まれる。これに併せて防犯上の観点から自転車駐場に防犯カメラを設置することにより、町民への安心安全を提供できるため事業の追加をした。 地域創造支援事業(中央公民館交流施設):文化プラザ内(隣接地)に図書館が建設されることにより、現在使用している中央公民館内の図書室をバリアフリー化の交流施設にすることによる事業の追加をした。 事業活用調査(事後評価):本整備計画の最終年度(平成26年度)に実施する事後評価について、民間事業者のノウハウを活用し、その精度を高めるため、民間委託を行うことから、委託事業を追加した。				なし							
	交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		指標1	歩行環境の満足度	%	36	H20	49	H26	モニタリング	評価値	64	○	あり	一部区間整備途中の道路があるものの、生活道路の改修、排水性舗装による機能アップが図られ、安全性や利便性が向上した。	-
		指標2	図書館利用者数	人/年	28,582	H20	36,670	H26	モニタリング	評価値	40,512 (平成26年4月から8月までの利用者数の合計)	○	あり	生涯学習の拠点施設である函南町文化センター(旧中央公民館)の隣接地に図書館を整備したことにより、地域のコミュニティの充実が図られ、図書館の利用者数が大幅に増加した。	-
指標3		防災対策の満足度	%	39	H20	51	H26	モニタリング	評価値	51	○	あり	浸水被害の軽減策として、低地部に雨水貯留施設を設置し、また、災害時の資機材を備蓄する施設整備を行うなど防災対策に貢献した。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	その他の数値指標1	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
その他の数値指標2	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
4)定性的な効果発現状況	図書館の基本設計策定時に、町民アンケートの実施や町民参加の検討委員会を開催するなど、町民のニーズに応えた施設づくりを行ったため年間利用者数が大幅に増加した。														
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等								
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
	住民参加プロセス	図書館と子育てのための支援・交流センター愛称選定委員会における住民参加	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 特になし								
		(仮称)函南町図書館等複合施設管理運営方針検討委員会における住民参加	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				【函南町立図書館】町や学識経験者の他に、生涯学習塾の講師などを交え、函南町立図書館協議会として図書館の事業全般について協議を行う。 【地域交流センター】町と町長が連携して子育てしやすい地域づくりを目指すため、月1回のペースで地域交流センターの利用状況や行事の報告を行う。 また、平成27年より、町内の幼稚園の園長・保育園の施設長の代表、PTAの代表等から構成する(仮称)子育て交流センター運営委員会を設置し、地域交流センターの運営状況を報告し広く意見を求めるため、年間2回開催する予定である。								
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													

様式2-2 地区の概要

函南賑わい中央地区(静岡県函南町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 広域幹線道路(東駿河湾環状道路)の整備に併せて、少子高齢化に対応した安心・安全で賑わいあるまちづくりの推進 目標1: 既成市街地内の生活環境の保全と、活力ある商業地形成のための基盤を充実し、賑わいあるまちづくりを推進する。 目標2: 地域の交流とコミュニティの充実を図り、健康で文化的な生活と高齢者・子供に優しいまちづくりを推進する。 目標3: 災害に強く、安心して暮らせるまちづくりを推進する。	歩行環境の満足度	36 H20	49 H26	64 H26
	図書館利用者数	28,582 H20	36,670 H26	40,512 (平成26年4月から8月までの利用者数の合計) H26
	防災対策の満足度	39 H20	51 H26	51 H26



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 東駿河湾環状道路が開通したことにより中心市街地での交通量が集中するため、周辺住宅地からのアクセス向上のための道路整備を行い、安心安全な生活環境が図れた。また、舗装の打ち換えを行う際は、排水性舗装にするなど機能アップを図ったことで、水溜りができにくく快適な歩行空間を確保した。しかし、一部の道路工事は、交付期間中に事業が完了できなかったため、引き続き事業の推進を図る必要がある。 平成25年4月にオープンした複合施設「かななみ知恵の和館」の中にある図書館は、基本設計策定時に町民参加の検討委員会を開催した。その結果、図書館機能のほか、世代間交流機能、子育て世代交流機能など町民が利用しやすい環境が整い、幅広い年代の方が利用することができ、平成20年度の中央公民館図書室では年間28,582人の利用に対し、平成25年度では年間83,806人の利用があった。また、平成26年の4月から8月時点で40,512人の利用があり、計画策定時に目標としていた36,670人を5ヶ月で上回るようになった。今後も施設利用者数を維持向上し、生涯学習と文化の向上を図るためには、施設の管理・運営に当たり様々な企画や町民との協働に努める必要がある。 県、三島市、函南町、国の関係機関で構成される「大場川左岸下流域総合的雨水排水対策協議会」により、床上浸水被害の解消を目指して、アクションプランを作成し、関係機関がそのメニューを実現することができたため、安心安全な防災まちづくりにつながり、町民の満足度が向上した。しかし、防災対策の満足度が従前値39%に対して評価値51%となり、目標値に達したが、更なる満足度の向上を図るため、引き続きソフト、ハードを含めた防災対策の向上を目指す必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理の実施により、向上したアクセシビリティ・安全性を更に高めるため、良好な交通環境の維持・保全に努める。また、沿道の居住環境の保全のため、交通安全指導などのソフト面の仕組みを図り、東駿河湾環状道路からの交通による渋滞を解消するため、円滑な通行を確保するような生活道路の整備を図る。 図書館に訪れた人にとって、より快適で親しみやすい空間になるように努めるとともに、町民主体となるイベント活動を継続的に実施することで更なる利用者数の増加を図る。 図書館での様々なイベントの実施等を通じ、施設の管理、運営を行う人物や組織を育てる。 ハード整備による防災対策だけでなく、自助・共助の意識と災害対応力の向上を図るために、自主防災訓練や啓発活動等の町民が主体となった防災活動の支援を行う。 地域防災施設に関する事業により、ハード整備を行ったが、治水対策は流域全体で対策を講じる必要があるため、今後もソフト・ハード対策を含め更なる防災対策の充実を図る必要がある。